

伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業

旧上野市庁舎整備についての 事業説明会

報告書

令和5年（2023年）6月

(株)伊賀市にぎわいパートナーズ

目次

I	旧上野市庁舎整備についての事業説明会	
1.	開催目的	2
2.	開催概要	2
3.	プログラム	3
II	新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について	4
III	旧上野市庁舎見学	11
IV	ご意見	17

I 旧上野市庁舎整備についての事業説明会

1. 開催目的

伊賀市にぎわいパートナーズは、伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業の整備に向け、地域の人々や観光客による施設のにぎわい創出やユーザビリティ向上のため、全3回のワークショップを実施し、多様な意見を集約、それらを参考に基本設計をまとめました。現時点でどのような施設になるのかを説明する機会として、今回の事業説明会を開催しました。

2. 開催概要

日 程：令和5年6月18日（日）

時 間：午前9時30分～正午

会 場：ハイトピア伊賀 5階多目的大研究室 旧上野市庁舎

対 象 者：伊賀市在住・在勤・在学（児童・生徒）・近隣の市町村在住の方

定 員：100名程度（応募者多数の場合は抽選）

告知方法：チラシ、HP掲載、face book、文字放送、報道情報提供

申込方法：申込フォーム、FAX、図書館（室）カウンターへの提出

申込期限：令和5年6月13日（火）

参加者数：申込者 72名 内当日参加者 59名 （旧上野市庁舎見学 47名）

チラシ（表）

旧上野市庁舎整備についての事業説明会

事業説明会

みんなでつくる新しい図書館

株式会社伊賀市にぎわいパートナーズでは「旧上野市庁舎」を、図書館を中心とした「にぎわいづくりの拠点」として整備を進めています。

全3回のワークショップでは、多くの方から意見やアイデアが生まれ、それらを参考に基本設計で「旧上野市庁舎」がどのような施設になるのか、皆様にご説明いたします。

6/18 日曜日

時 間 午前9時30分～正午

場 所 ① ハイトピア伊賀5階多目的大研究室
② 旧上野市庁舎

対象者 伊賀市在住・在勤・在学、近隣の市町村在住の方

定 員 **100名程度**（応募者多数の場合は抽選）

申込方法 申込フォーム、FAX、図書館（室）カウンター

申込期限 **令和5年6月13日（火）** お申込み方法は裏面をご覧ください。

主催：株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ 問合せ先：担当 佐本 080-5912-5859

チラシ（裏）

説明会のお申込み方法は**3種類**！

- ① 右側のQRコードから申し込みフォームにアクセス
URL: <https://vs.formzu.net/fgen/S17981669/>
- ② 申込書をFAX
FAX送信先：0595-21-8999（伊賀市上野図書館）
- ③ 申込書を「伊賀市上野図書館または各図書館」カウンターに提出
伊賀市上野図書館 住所：三重県伊賀市上野丸之内40番地の5 電話：0595-21-8888

申込締切：令和5年6月13日（火）午後5時必着
申込書 FAX 送信先：0595-21-8999（伊賀市上野図書館）

フリガナ	
氏名	
年齢 （旧上野市に〇）	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上
住所 （旧市まで）	
勤務・通学等	通勤・通学（学校名： ）
電話番号	伊賀市内に通勤・通学されている方は電話番号に〇を記入してください。
メールアドレス	携帯メールアドレス、日中に連絡がとれる番号をご記入ください。 @

※ご応募いただいた個人情報は、本説明会のみで使用し、他の用途では一切使用しません。
※応募者多数の場合は年齢や地域等のバランスを考慮した上で抽選となります。
※応募及び参加方法についてはメールでご連絡いたします。メールアドレスをお持ちでない方には電話でご連絡いたします。
※説明会当日の様子（写真等）を伊賀市ホームページ等に掲載する場合があります。また、会場は新聞関係者の取材が入る場合がありますことをあらかじめご了承ください。

全参加者内訳

年齢	人数
10代以下	0名
20代～30代	2名
40代～50代	13名
60代～70代	38名
80代以上	6名
合計	59名

3. プログラム内容

<タイムスケジュール>

- 9:00 開場・受付
- 9:30 挨拶、本日のスケジュール
- 9:35 新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について
質疑応答
- 10:45 希望者のみ、旧上野市庁舎へ移動
- 11:00 施設を見学しながら説明
- 12:00 閉会

<配布資料>

- ・次第
- ・設計資料 8 枚



II 新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について

新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について

伊賀の文化を育んだ豊かな地形に寄り添う旧庁舎の魅力を活かし、
新しい市民の場所をつくる

伊賀市は京都―奈良―伊勢を結ぶ交通の要所であり、山々に囲まれた地形的特性が、米や畜産等の豊かな食文化や忍者に象徴される独自性の高い文化を育んできました。旧上野市庁舎は、このような豊かな地形が生み出した街の中心地、上野丸之内に建ち、永い時を刻んできました。かつて、藤堂高虎によって築城された伊賀上野城は地形を最大限に活かしてつくられました。巨匠建築家・坂倉準三によって設計された旧上野市庁舎も、上野公園へと連続する豊かな起伏に呼応するように、高低差を活かして繋がり、周辺環境に開いたおおらかな空間を備えています。この旧庁舎を新しい時代に再生するにあたって、私達は、伊賀市の持つポテンシャルを最大限に活かし、まちの豊かな資源をつないでいく結び目として、多世代が出会い交流する多様な居場所をつくり、周辺環境に開いた建築とすることを考えました。具体的には、以下の3つのコンセプトを位置付けます。



1. 伊賀の文化を開く起点となる

本施設を伊賀の文化を発信する拠点として位置付け、伊賀の文化や風土を感じられる場とします。観光客に伊賀市の魅力を伝えるだけでなく、伊賀市に住む人たちにも新たな発見や愛着に出会えるような場所となります。

また、建物自体の歴史的価値を改めて発信できるようなきっかけづくりにも寄与します。

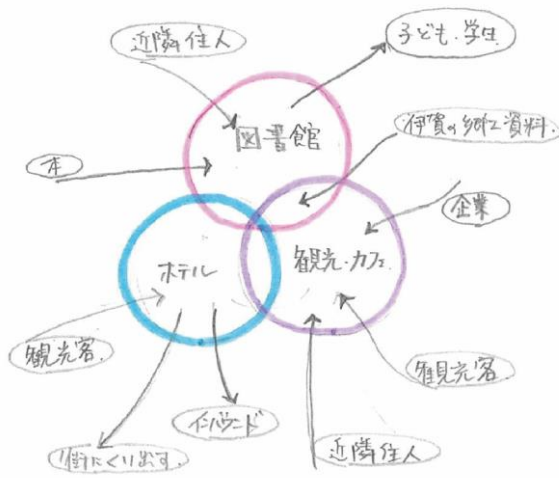


新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について

2. まちを活性化する結び目となる

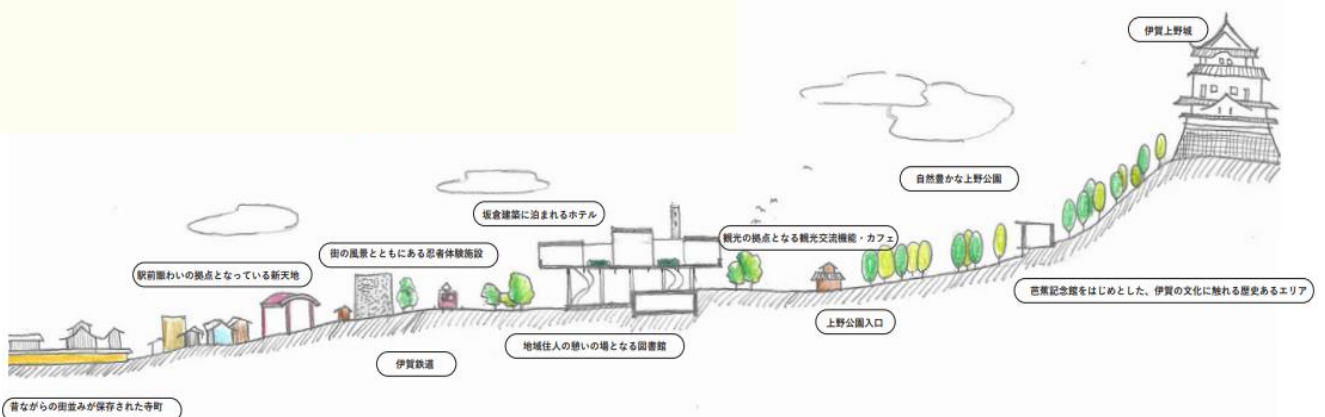
まちの情報拠点で観光客にとっても深くまちの情報に触れる場所となる「図書館」、伊賀の文化財である空間をより長く、ゆっくりと過ごすための場所となる「ホテル」、伊賀をよりたくさんの人たちにしってもらうきっかけとなる「観光交流」といった、市民・観光客にとって必要な機能を3つ計画します。

これら3つの機能がそれぞれの機能毎に完結せず、相乗的に関係しあうことで賑わいの拠点となるような施設を目指します。



3. まちの地形に呼応するように機能が有機的に連携し合う

伊賀市の街並みの魅力は、歴史ある風景が残っていることはもちろん、今もそこに人々の暮らしが息づいていることにあります。伊賀ならではの活動が連なる地形に呼応するように有機的な機能連携を促す計画とします。



新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について

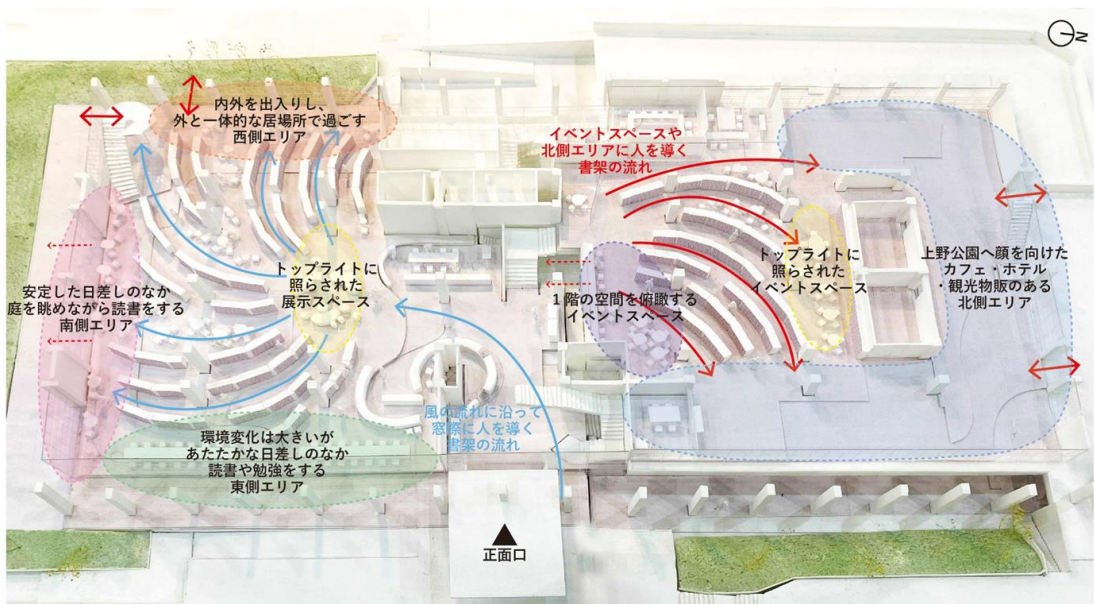
● 「人間のための建築＝周囲との環境の融和」

坂倉準三はモダニズムムーブメントにおける巨匠の一人ですが、建築を単に様式や流派の枠組みのみでとらえるのではなく、なによりも「建築は生きた人間のためのもの」という信念を掲げていました。旧上野庁舎は、伊賀上野城の丘陵、山裾の緑と城下町をつなぐよう低層で計画され、市民を見下げるのではなく市民を迎入れ、市民と伊賀のまちなみと共に歩む建築として建てられています。

また、「自然の要求をどういうふうに満足させながら多くの人がいっしょに住めるか」と述べているように、周囲との環境の融和を非常に重要な要素であると考えていることが分かります。

● 坂倉建築の環境を読み解いた居場所をつくる

坂倉準三が旧庁舎を設計するときを考えていた「伊賀の風景に開いた人間のための空間」について、最新のコンピュータ・シミュレーション技術を使って読み解こうと試みました。一年を通じて豊かな伊賀の気候風土をコンピュータ上に再現し、その日照や風況、温湿度の様子を旧庁舎の建築空間に重ねると、坂倉建築が持っていた特徴がいくつか浮かび上がってきました。例えば、南北軸から少しだけ傾いた建物の配置によって、M2階は常に穏やかで安定した明るさに保たれていました。また、南にせり出した2階ボリュームは、1階に対する庇として効果的に直射光を遮っており、1階の南面窓際で過ごしやすい環境をつくっていました。

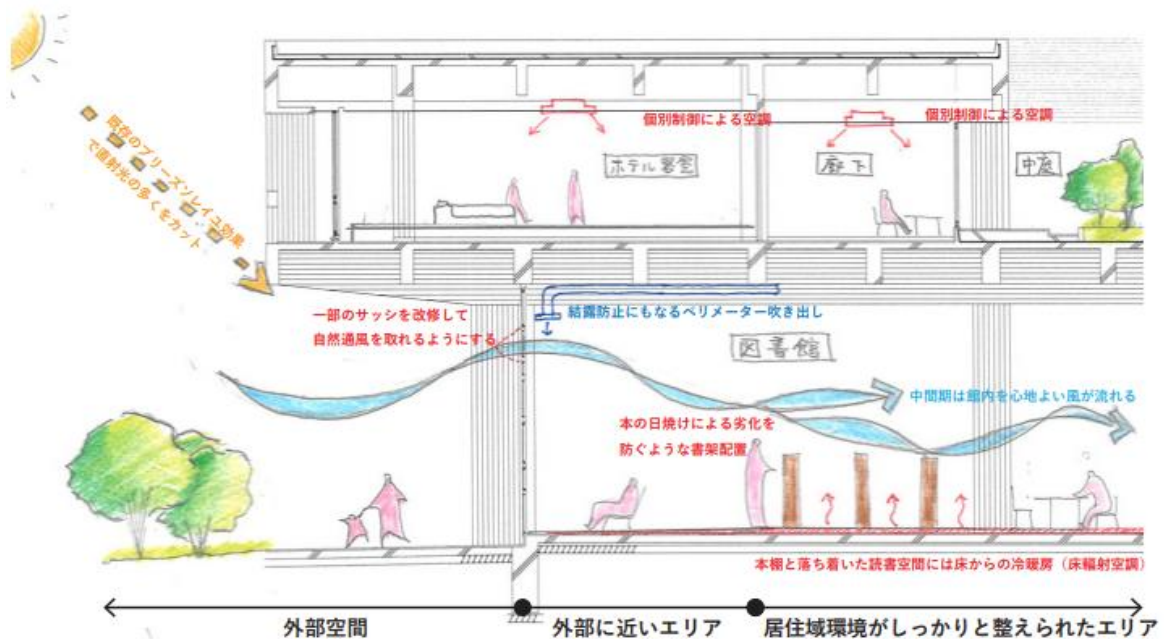


新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について

● 環境のレイヤーをつくりながら適材適所な居場所を整える

環境シミュレーションによってその空間や環境の特徴を理解したうえで、この坂倉建築の特徴を生かした新しい図書館の環境を計画しました。伊賀の春や秋に多く現れる北東風や南西風を、窓から図書館1階に促そうとし、常に心地よい風が隅々まで届くように書架の配置も工夫しました。また、窓際に読書スペース、天窓下にイベント・展示スペースを配置したり、強い日差しが届かない場所に本棚を置くようにもしました。加えて、高い天井高ですが夏冬にも快適な温熱環境をつくろうと、床放射冷暖房システムを採用しました。

建築の特徴を活かして豊かな伊賀の自然を館内にも積極的に促しながら、快適であるために最新の設備システムも採用しました。坂倉準三の目指した建築の在り方を、現代的な手法も加えて積極的に再生し、その新しい姿を未来へ継承しようと試みました。



● のびやかに広がる書架と居場所が選択できる読書空間

坂倉建築のダイナミックな大空間に変化に富んだ多様な読書空間を計画します。例えば、のびやかな書架に囲まれた落ち着いた閲覧エリアや窓際にゆっくりと外を眺めながら読書できるエリア、日の当たる心地の良いエリアなどがあります。

新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について

- 多機能が連携し合うことで賑わいを生み出す中二階エリア

中二階では大空間を見渡せる吹き抜け付近に本施設のメイン機能である図書館を据え、上野公園側に観光交流機能やカフェ、ホテル入口を配置しました。情報と活動のエリアがスキップフロアにより大空間と連続することで館全体の賑わいの創出を図ります。



- おおらかな軒下空間に広がる人の居場所

屋外の軒下空間は机や椅子、ベンチが設えられることによって、図書館やカフェから連続した人の居場所が広がります。季節や時間帯によって来館者は居心地の良い居場所を選択できます。



新図書館を含む旧上野市庁舎の基本設計について

- こどもたちが落ち着いて遊ぶことができる書架空間から連続する軒下空間

地階の児童開架は背の高い庇と外構によって自然光が導かれ、光にあふれつつも落ち着いた空間となります。書架空間から連続した屋外空間は植栽や家具によってゆるやかにセキュリティラインを形成し、親子がのびのびと過ごせる居場所となります。



- 伊賀の文化に接続できる宿泊エリア

二階は宿泊エリアをメインとします。このエリアは下階の空間性と異なる天井高さの低い落ち着いたエリアになります。空間だけではなく、家具も含めて坂倉準三のデザインを感じられる場所となり、客室玄関含めた共用部は伊賀の文化にも触れられる展示も検討します。



III 旧上野市庁舎見学

旧上野市庁舎見学

参加者は、1F一般開架から、B1F児童開架、M2F一般開架、2F ホテルへとまわり、各所で説明をしながら施設を案内。随時、質問にも答えた。



1F エントランス



1F 一般開架



M2F 一般開架



B1F 児童開架



2F 学習・集会室前



質疑応答

IV ご意見

ご意見

ご意見 1	2 F のホテル利用者と図書館利用者とを分ける方法がサインや人的監視でということは、結局すべてオープンだと理解した。なぜ明確に分けることができないのか。
回 答 (事業者)	どこまでセキュリティを強くするには色々な考え方があるが、この空間そのものの立体的な回遊性を視覚的にも活かしていきたい。サインなどで十分に仕切る運用ができると考えこのような提案をしている。
ご意見 2	1 F に多目的トイレは必要。B 1 F にはあるが、介助者がいる場合や電動式の車いすなら対応できるが、そうでなければエレベーターを使わないと利用できない。 2 F の多目的トイレは、男性用トイレの中にあり、独立しておらず女性は利用しにくい。 バリアフリーの客室は、お風呂などこのサイズでは利用しづらいのではないか。
回 答 (事業者)	1 F の多目的トイレについては、現在の 1 F 貴重書閲覧室の場所に計画していた時期もあり、ワークショップでの意見を参考に修正したが、本日のご意見を踏まえて再度検討したい。 2 F のトイレプランについても、詳細設計でここから検討しなおしていきたい。 客室についてはまだ確定しておらず、いただいた意見を参考に検討させていただきたい。
ご意見 3	○ワークショップに 2 回参加し、市からも話を聞いたが、結局何も変わっておらず、根本的なことが何も解消されていない。2 F は観光客のためだけのものになっていて市民は使えない。児童スペースが B 1 F に追いやられている。学習室のタイムシェアについても賛成できない。もう一度立ち返って考え直してほしい。 ○いったい誰のための図書館か。ホテルと一緒にいるから市民は心配している。こどもたちが安心して使える図書館を望んでいる。市民の望みと、説明してもらったことがどこかずれている。相いれないものがある。
回 答 (事業者)	いただいたご意見の趣旨については深く理解しているつもり。ご意見を踏まえた上で進めているが、設計の範疇を超えたことについてはお答えできかねる。

ご意見

その他	せっかくこれだけの人が集まっているいろんな話が出ているのだから、伊賀市の方に可能な範囲で、今出たご意見に対して答えていただくことはできないか。私達もいろんな現実に対応していかなければならないことは認識している。市民が納得するには市からの説明がほしい。
回 答 (伊賀市)	最初に、本日は事業者主催の設計内容の説明会であり、これまでの経緯について話すものではないことをご了解いただきたい。根本的な話として、なぜホテルと図書館が一緒になっているのかということだと思う。そもそも旧庁舎をどのようにすべきかは十年ぐらい議論されてきた。その中で最初は行政が主体になって中心に進めていく方式で考えていたが、いろんな経緯があり、最終的にはPFI事業で進めていこうと議会で決定した。行政がやっていきたいことは、旧庁舎を残すこと、図書館として使うことだが、これだけだと市だけがお金を出すことになるので、民間の力や資金を利用してうまく活用できないか、ということでPFI事業になった。その中で事業者から図書館とホテルの融合という提案を受け、市で採用、決定したという経緯がある。いま何が良くて何がダメなのか、ホテルだからダメ、だったら何だったらいいのか、という議論をする段階ではないということをご承知おきいただき、設計内容の話を聞いていただきたい。
ご意見 4	1F平面図に等高線のような±0や+140などの数字があり、ここは床が上がっていて、そこに書架を設置すると聞いた。ここをもう少し詳しく説明してほしい。視覚障がい者の方が対面朗読室へ行くにはどのような導線で行くことになるのか。視覚障がい者がエレベーターを利用して対面朗読室に行くには、イベントをしている前を歩いていくのか。
回 答 (事業者)	素晴らしい坂倉建築だが、現代の建築の機能は備わっていない。保存をしながら、どうすれば居住環境としてよい場所がつかれるのかを考えている。1Fは天井高が高く空調の効きが悪いため床輻射空調を採用する予定。具体的に説明すると、床の中に冷温水が流れて、例えば冷房なら床全体がひんやりと涼しくなり、それがじわっと体に伝わる。床から伝わるので、天井までのすべての空気を冷やしたり暖めるものではなく、人に近い部分の空気を暖めたり冷やしたりということを考えている。そのために少し床をかさ上げする必要があるが、なるべく段差を抑える工夫をするように検討している。等高線の近くの数字の単位はmmなので、140は14cmになる。窓際に等高線が書いてあるが、車いすやベビーカー、ブックカートなどが意図せず移動しないような緩やかな勾配で解消したいと考えている。対面朗読室の行き方は、風除室の右手のエレベーターや、メインカウンターで必要な介助を受けて正面の階段で行くこともできる。ホテル側の入口から入ると、そのまま段差なく入ることができる。ベビーカーで児童開架に行くには、エレベーターを想定している。イベント時にも必ず通路は確保して実施する。

ご意見

ご意見 5	この施設ができれば観光バスでも観光客が多く訪れることになる。にぎわい忍者回廊という事業で、市の南側にどのように観光客を引っ張っていくのか戦略を聞きたい。
回 答 (事業者)	具体的に考えていることの一つとして、北側の上野公園側にカフェやホテル、観光物販を配置し、しっかりと施設の顔づくりをすることが重要と考えている。市内にどう観光客を引き込んでいくかについては、市街地から上野公園に向けて、建物の中を通り抜けたりできる流れを作りたい。図書館、カフェ、ホテルの各機能が連携して様々な目的を持った人たちがこの施設に集まり、目的が増えることによって多くの人を呼び込むことにつながると考える。にぎわい忍者回廊の事業は、この施設だけでなく、南側エリアに成瀬平馬門家長屋門に忍者体験施設をつくることもセットになっており、二つの施設で面的に伊賀市全体を盛り立てていきたい。
ご意見 6	先ほどの説明の中で、現代の建築物として満たしていない部分があると聞き、その通りだと思う。窓が多く光を取り入れる設計となっているが、当時は開庁時間が8時半～16時半で、16時半を過ぎると極端に暗くなり、水銀灯で対応した。三重県ではじめてできた公共図書館なので貴重資料がたくさんある。これを守っていくには施設がきちんとしていないと守っていくことができない。
回 答 (事業者)	現在求められる建築物として満たしていないものは2種類あり、構造的なものに対しては構造検査をし、破損個所の補修に取り組む。環境設備に対しては光の環境と温熱環境を整えていく必要があると考えている。光の環境に対してはコンピューターシミュレーションをし、自然光だけでなく人口照明を併用しながら十分な明るさを確保する。同時に西日についても本の日焼けを防止する観点から遮光を工夫する。温熱環境については、床輻射空調の採用など適切な空調設備を整え、そのための熱源を機械室と室外機を屋上に配置する。
ご意見 7	駐車場はどのようになるのか。
回 答 (事業者)	現在ある駐車場のスペースを活用していくが、運用面についてはまだ検討中。いただいたご意見などを参考に周辺駐車場との連携も含めて今後詰めていきたい。
ご意見 8	防犯カメラは設置する予定ですか。
回 答 (事業者)	ホテルの運営についての詳細はまだ決定していないが、防犯カメラについては今後十分検討していきたい。

ご意見

ご意見 10	市の職員も前の説明者も対応が良く、この方たちに任しても大丈夫という気持ちだ。隣の市に住んでいるが、このような会議が開かれるということ自体が羨ましい。いっぱい不安はあると思うが、いままで十年以上かけて議会も通って、ある程度の不安も解消しているはず。今回の説明者の対応を見ていたら、上手くいくと思う。
回 答 (事業者)	どんな事業にも常に様々な困難はあるが、市民、行政、事業者が前向きに一緒に会話をしながら課題を解決することが素晴らしいことだと思う。そういう心持ちでやっていきたい。
ご意見 11	みんなが知恵を出し合って素晴らしい図書館、ホテルができることを願っています。

今回の事業説明会でも多くの意見や、施設に対する不安を聞くことができた。今後いただいたご意見を参考に実施設計を進めていきたい。



伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業

旧上野市庁舎整備についての事業説明会 報告書

令和5年（2023年）6月発行 / 編集（株）伊賀市にぎわいパートナーズ